輝け理系女子

豊橋技術科学大学の挑戦②

重要な審査・評価の場で少ない参画

「理系女性研究者の活躍促進シンポジウム」。1部で行われた基調講演では、女性研究者・技術者の状況として、環境整備により離職者は低下しているものの、女性リーダー（教授・准教授など）の数が限られており、重要な審査・評価の場において女性の参画が極めて低い点を指摘。このことが女性研究者登用に際してのバイアス（偏見）とバリア（障壁）になっていることを説明した。

また、女性のライフステージに即した働き方の「希望と現実」にギャップが生じ、その結果働いていない女性が多くなる、特に高学歴の女性に多くなっていることも示した。

女性活躍推進の課題については、制度的な差別はほとんどなくなったものの、機会（チャンス）の平等を訴えた。例えば、育児休業制度があっても、その後の働き方の環境を整えなければ、女性の就業継続は難しい。働き方の柔軟化や長時間労働の縮減など男性も含めた一般的な働き方を見直すべきだとした。

２部は「ものづくり愛知における理系女性研究者の活躍促進」がテーマのパネルディスカッション。豊橋技術科学大学・中野裕美男女共同参画推進室長をコーディネーターに、パネラーは大西隆技科大学長のほか、基調講演を行った、三菱ＵＦＪリサーチコンサルティング主任研究員矢島洋子氏、東村博子名古屋大男女共同参画室長、井上泰夫名古屋市立大同推進センター長、加藤千景デンソー加工ＣＡＥ推進課長。男女共同参画を最前線で推進するパネラーがそろった。

２部・パネルディスカッションでコーディネーターを務める中野教授

大学・民間それぞれの立場から、予備軍が少ない状態にある女性リーダーをどう育てるかに焦点が移動している職場の現実を紹介。男性の長時間労働も問題視し、「世の中全体として、働き方が変わらなければ、大学でも企業でもやっていけない」という点に議論が集中した。

（戸崎史子）